

平成25年度成果報告

	対象者		助成活動概要	成果報告
旅	昭和大学 藤が丘病院 腎臓内科	長谷川 毅	米国腎臓学会参加旅費 一部助成	米国腎臓学会(2013年11月5日～10日,アトランタ)に参加し、“Greater Endotoxin Level Of Dialysis Fluid Associated with Increased Mortality Of Hemodialysis Patients: A Nationwide Cohort Study”の口演発表を行い、活発な質疑応答、討議を行いました。
旅	虎の門病院 分院 腎センター	三瀬 広記	米国腎臓学会参加旅費 一部助成	2014年11月に米国フィラデルフィアで行われた米国腎臓学会で「Clinical and pathological predictors of estimated GFR decline in patients with type 2 diabetes and overt proteinuric diabetic nephropathy」の演題でポスター発表。2014年第26回糖尿病性腎症研究会と2015年第60回日本透析医学会学術集会以「顕性蛋白尿を有する2型糖尿病患者におけるeGFRの低下に与える臨床および病理組織学的因子の検討」の演題で口演
旅	社会保険中京病院 腎臓病センター	三浦清世美 他2名	日本臨床腎移植学会、日本移植学会等参加旅費 一部助成	第50回日本移植学会にて「腎移植レシピエントの服薬管理の現状から見えてくること」を発表した。フロアとのディスカッションにより、服薬アドヒアランスの影響要因から外来におけるレシピエント移植コーディネーターの役割および多職種連携の重要性を再認識することができた。
旅	虎の門病院 腎センター内科	平松 里佳子	米国腎臓学会、神奈川腎炎研究会、腎性骨症研究会参加旅費 一部助成	テリパラチドは低PTH血症の透析患者の骨密度を上昇させ有効性が示唆された。有害事象は認めなかった。本検討の成果は第59日本透析医学会学術集会以て口演発表および第26回腎性骨症研究会にてポスター発表を行った。
旅	東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科	衣笠 哲史	フランスINSERMの研究室に留学するための旅費 一部助成	
旅	岩手医科大学医学部内科学講座	田中 文隆	日本腎臓学会総会、日本循環器学会総会、アメリカ心臓病協会年次学術集会 参加旅費 一部助成	われわれは、糖尿病かつ高血圧のない地域住民を対象にアルブミン尿と将来の心血管疾患(CVD)発症との関連を解析した。その結果、微量レベルからのアルブミン尿がCVD発症危険と関連した。以上から、アルブミン尿のCVDリスクは糖尿病や高血圧に依存しないことが明らかになった。
研	秋田大学大学院 工学資源学研究所	涌井 秀樹	腎不全進行防止を目指したネフローゼ症候群の病因解析	腎不全に至るネフローゼ症候群の治療法開発に、PAN腎症モデルの病因解析が寄与する。今回、動物腎からPAN標的蛋白質を新たに同定した。糸球体濾過バリアーに高発現する酵素であり、PAN腎症発症との関連性が示唆された。
研	千葉大学大学院 医学研究院	竹本 稔	神経伝達因子 脳下垂体アデニル酸シクラーゼ活性化ポリペプチド(PACAP)の腎保護作用に関する検討	神経保護作用を有するPACAPは糸球体構成細胞の一つであるポドサイトにおいてもMCP-1やIL-6といった炎症性サイトカイン発現抑制効果を介して腎糸球体保護的に作用する可能性が本研究により明らかとなった。
研	東京女子医科大学 腎臓小児科	近本 裕子	小児腎移植の成績向上に関する研究	当院小児腎移植患者308例の生存率、移植腎生着率、移植腎喪失原因を含む移植成績と成人後の生活状況等調査を実施した。生存率と移植腎生着率は良好であった。また生活状況を国勢調査結果と比較し、最終学歴や就労は比較的差が小さいものの、婚姻が明らかに低率であることが明らかとなった。現在論文発表準備中である。

研	東京女子医科大学 泌尿器科	平井 敏仁	Invariant natural killer T細胞の活性化を利用した新規免疫制御プロトコルの開発	ヒトNKT細胞培養系を樹立し、これを用いてヒトiNKT細胞のlipo-aGC、抗CD40抗体への反応性を調べた。ヒト細胞でも、マウス同様、lipo-aGCによりIL-10産生が誘導され、抗CD40抗体によりIFN γ 産生が抑制されることが確認された。
研	日本医科大学 千葉北総病院	栗原 理	造影剤腎症に関する臨床的検討の一部助成	生体内で造影剤投与に伴う腎血管抵抗の反応性について研究を行い、英文原著"Microvascular Resistance in Response to Iodinated Contrast Media in Normal and Functionally Impaired Kidneys"として投稿し、 <i>Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology</i> に受理された。
研	秋田大学医学部 附属病院	富樫 賢	IgA 腎症と紫斑病性腎炎におけるIgA 型自己抗体の同定と病因の解明	研究費を活用し、病因解明につながる自己抗体の解析を行い、他の腎疾患での反応性を検討した。同時にIgA腎症と紫斑病性腎症の鑑別につながるToll様受容体の研究を行い、成果を第58回日本腎臓学会(P-122)に発表した。
研	社会医療法人 川島会川島病院	土田 健司	血液透析患者における蛋白漏出膜によるヒト還元型アルブミン産生の効果	HD患者において蛋白漏出膜(1治療あたり10g程度のアルブミン漏出)と非蛋白漏出膜(1.0g程度)使用時のヒト還元型アルブミン産生を検討したところ、蛋白漏出膜で有意に還元型アルブミン割合が増加しており、蛋白漏出型HDは還元型アルブミン産生に寄与することが示唆された。
研	社会医療法人 川島会川島病院	横田 成司	オンラインHDF療法の生体適合性評価	前希釈オンラインHDFと後希釈オンラインHDFにおける単核球で産生されるサイトカイン(インターロイキン6、ペントラクシン3、ICAM-1)を検討したところ、統計学的有意差は出なかったものの、いずれのサイトカインも前希釈オンラインHDFで低く、前希釈オンラインHDFの生体適合性の優位性が確認された
研	社会保険中京病院 腎臓病センター	三浦清世美 他2名	腎移植レシピエントの服薬アドヒアランス育成支援の検討	第50回日本移植学会にて「腎移植レシピエントの服薬管理の現状から見えてくること」を発表した。フロアとのディスカッションにより、服薬アドヒアランスの影響要因から外来におけるレシピエント移植コーディネーターの役割および多職種連携の重要性を再認識することができた。
研	東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科	衣笠 哲史	慢性腎疾患における腎線維化の新たなバイオマーカーと治療標的分子の解明	
図	社会保険中京病院 腎臓病センター	三浦清世美 他2名	腎移植レシピエントの服薬アドヒアランス育成支援の検討	調査結果から外来スタッフを対象に、服薬指導および患者指導に関する学習会を3回行った。基礎知識に加え、行動変容を促す保健指導の実際、戦略的個別保健指導ガイドを参考に指導案を作成した。今後、病棟スタッフを対象に学習会を計画している。